

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動（学習指導）
重点課題	生徒の実態に即した適切な受講登録とわかる授業の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校には不登校経験者が多く、基礎学力が定着していない生徒がいる。 ・様々な理由から、転入学生や編入学生が在籍している。 ・進路希望は就職希望から四年制大学への進学まで多岐にわたる。 ・学習への目的意識に乏しく、安易な欠席や遅刻が見受けられる。 ・コミュニケーションが構築できず、グループ活動や意見交換が苦手である。
達成目標	講座出席率と単位修得率の向上 講座出席率80%以上 単位修得率80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒や学習習慣が身に付いていない生徒が授業に参加できるように、学校全体で学習の支援にあたる。 ・多様な生徒のニーズに応じた、弾力的な教育課程の編成に努める。 ・ホームルームや面談を通じ、一人一人の目的に沿った無理のない受講登録を勧める。 ・生徒、教員（担任・授業担当者）、保護者との連携をとっていく。 ・ICT機器活用の推進を図り、タブレットやデジタルコンテンツ等を活用した教材開発に努める。 ・指導と評価の一体化を推し進め、校内外の研修を生かして授業改善に努める。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

令和6年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学習活動（福祉教養科）
重点課題	家庭・福祉への興味・関心を向上させ、家庭・福祉に関する知識・技術の習得を図るとともに、福祉教養科での学びの達成感や充実感を高める。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域における生活体験の希薄化により、家庭に関する基礎・基本が定着しにくく、意欲が乏しい生徒が増えている。 ・教育課程において、多様な家庭に関する専門科目（被服、食物、住居、保育、福祉など）、福祉に関する専門科目を設定し、生徒それぞれの興味・関心や進路希望に対応している。 ・家庭・福祉に関する専門科目において、実習・体験や、専門家による講義等を計画的に取り入れ、専門性を高めるように取り組んでいる。 ・里孫活動を含めた家庭クラブ活動を継続的に実施している。 ・3年次生を対象に介護職員初任者研修を実施している。
達成目標	家庭・福祉への興味・関心の向上、家庭・福祉に関する知識・技術の習得に向けた指導体制の充実や改善を行う。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目全般の授業において、体験的な学習や生活産業の専門家を招いた授業の実施など、学習指導の充実を図る。 ・授業以外においても、家庭クラブ活動（里孫活動を含む）や、福祉施設での校外実習、福祉教養科合同ホームルームでの体験的な講座や交流活動の充実を図る。 ・以上の取組を通して、家庭・福祉への興味・関心の向上、家庭・福祉に関する知識・技術の習得、福祉マインドの育成を目指すとともに、生徒自らが家庭や福祉を学ぶ意義について考えさせ、福祉教養科での学びの達成感や充実感を高めさせる。 ・1年次生から介護職員初任者研修の資格取得に向けた働きかけを行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

令和6年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	学校生活（保健指導）
重点課題	保健厚生委員会活動の活性化による、生徒の環境整備に対する意識向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・保健厚生委員会では、昨年度から多くの一般企業等で取り組まれている5 S活動の導入に取り組んでおり、今年度は意識向上に向けた更なる取組が必要である。 ・地域ごとのゴミ分別は、環境保全に不可欠であり、委員会活動としてゴミの分別チェックを継続的に実施してきたが、十分な効果は得られていない。保健厚生委員会による生徒目線の情報発信と実践的な行動から、全校生徒一人一人が5 S活動の理解を深め、社会人としての準備を進めていくことが求められている。
達成目標	委員会活動において環境整備に関する啓発活動を月1回以上実施する
方 策	<p>保健厚生委員会の活動を通して、生徒の環境整備意識を向上できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5 Sの理解・啓発と実践 <ul style="list-style-type: none"> ・学校所在地におけるゴミ分別ルール遵守状況を定期的に確認し、課題を把握する。 ・分別ルールを守ることが5 Sの実践の一つであることを校内に周知する。 ・活動を通して把握した課題や成果について、情報共有や改善提案を行う。 ○家庭への啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や保健だよりを活用して、保健厚生委員会による環境整備の取組状況を発信する。 ・家庭へ5 S活動の意図するところを呼びかけていく。 ○アンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒を対象としたアンケート調査を行い、環境整備への意識の変化を把握する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。)

令和6年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 4 -

重点目標	進路支援（進路指導）
重点課題	生徒が主体的にキャリア教育の向上を目指しながら、目標に向かって実践できる進路指導（支援）体制を構築する
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の向上のための具体的な方策について、「キャリアパスポート」や「みどり野メソッド」等の取組内容が煩雑になりつつある。そのため、生徒にキャリア教育（進路実現、日頃の学校生活、各種学校行事等を含む）の向上のための、克服すべき自分の課題や目標が適切ではなかったり、目標設定の作業が行いにくかったりすることがある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分自身の課題を客観的に把握し、それらを主体的に克服しながら進路実現に向かおうとする意欲を育むことができるような支援体制の充実と改善を行う。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学期や行事毎に実施する「キャリアパスポート」や「みどり野メソッド」の作成を精査し、効率化を図りながら取り組むことで、自分自身の課題を客観的に的確に把握する機会を定期的に設ける。 ・自分の課題について主体的に克服しようとする意欲がもてるよう、関係する分掌や年次、スクールカウンセラー等と連携しながら学校全体で取り組む。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。)

重点項目	特別活動 ～特別活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図る～
重点課題	豊かな人間関係を構築する能力とコミュニケーション能力の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 本校生の特徴として、ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事（スポーツフェスティバルや新川キャンパスフェスティバルなど）において、他の生徒と協働しながら主体的に活動できるような生徒が少ない。教師からの指示に従って活動することはできるが、他の生徒との良好なコミュニケーション能力が乏しく、基本的な生活習慣が確立できていないため欠席が多い生徒が多い。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 「様々な特別活動に主体的に参加する、互いのよさを生かしながら協働して活動する、他の生徒や教師とのコミュニケーション能力を高める」という目標を達成するため、ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事、部活動を通して、生徒が主体的に特別活動に参加したり、協働して活動に取り組んだり、コミュニケーション能力を高めたりする機会を増やす。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動では、話し合いや他者と協働しながら活動する経験を通して、ホームルームの一員としての役割を自覚させ、協調性やコミュニケーション能力を身に付けさせる。 生徒会活動や委員会活動では、活動に進んで参加する意識を高めさせるとともに、学校生活をよくするための課題を見出し、話し合いを通して合意形成を図る経験を増やせるように取り組ませる。 学校行事では、生徒会や委員会が主体となって「生徒会だより、委員会だより」を発行し、学校行事の活動内容や行事の意義を知らせることで、行事への参加率を高めさせる。また、事後アンケートを行い、自らの活動の振り返りを行わせる。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。)